

# 中山間地の田んぼ、水不足深刻！



上から大島区嶺、吉川区下小沢、板倉区菰立

記録的な5月の高温と少雨によって、市内中山間地の田んぼでは水不足が深刻化しています。

6月1日、私は大島区大島や嶺で田んぼの水不足状態を視察してきました。

このうち嶺地内の田んぼは、私が訪れたときの少し前に、やっと田植えを終わらせたということでした。下午の池からポンプで水を上げて植えたといいますが、池はもう使える水がありません。今後、雨が降らないと、乾いてしまうこと必至です。

4日は水不足となっている吉川区内の田んぼの状態を見てきました。見てきたのは山中、高沢入、坪野、下小沢地内の田んぼです。

このうち、山中地内では、何とか田植えをしたものの、ひび割れが始まっている田んぼがありました。ま

た、下小沢地内では代掻きできそうもない田んぼが少なくとも1.5ヘクタールはあることがわかりました。他のところでも、田植え後、田んぼの土が出始めているところがたくさんありました。

耕作者の一人、Yさんは、「こんなにひどいのは初めてだ。今週末の雨に期待している」とのべていました。

日本共産党議員団は5日、本会議終了後、板倉区菰立（こもだて）、飯喰沢（いぐいざわ）に入って干ばつ状況を見てきました。田植えは終わっていたものの、水不足は深刻で、ひび割れが始まっている田んぼを何枚か確認してきました。

昨年よりも早く被害が広がりつつあります。急いで干ばつ対策をとってもらいたいものです。

抗議文では、「国際社会が『核兵器のない世界』の実現に向けて努力するなか、核兵器保有や新たな核

アメリカが2月13日、29回目の臨界核実験を行ったことがこのほど明らかになりました。これに対して上越市と上越市議会は5月29日、非核平和友好都市宣言をした上越市民を代表してアメリカ大使館に抗議文を送付しました。

兵器開発につながる核実験を実施することは、核兵器廃絶を願う世界の人々の期待を裏切るものであり、国際社会における核軍縮・不拡散への取組に逆行するもの」と強く批判しています。安倍内閣も上越市に見習ってほしいです。

## 米国の臨界前核実験に抗議



【スイカズラ】再掲。スイカズラ科の常緑つる性木本。漢字で「吸い蔓」と書きます。別名はニンドウ（忍冬）。葉が冬に耐えて緑を維持していることからそう言われているようです。花は最初白く、徐々に黄色くなります。開花の時期がずれたため、写真の花は白と黄色の花が一緒になっています。花言葉は「愛の絆」。4日、撮影。

### 6月定例議会日程（会議開始時間はいずれも午前10時）

月 日	会議名	会議室名	備考
6月5日（水）	本会議	議場	提案説明
6月6日（木）	厚生委員会	第1委員会室	付託案件審査
6月7日（金）	農政建設委員会	第1委員会室	付託案件審査
6月10日（月）	文教経済委員会	第1委員会室	付託案件審査
6月11日（火）	総務委員会	第1委員会室	橋爪が担当
6月12日（水）	本会議	議場	一般質問
6月13日（木）	本会議	議場	一般質問
6月14日（金）	本会議	議場	一般質問
6月17日（月）	本会議	議場	一般質問
6月19日（水）	本会議	議場	付託案件採決

はしづめ法一の  
活動レポート

No.1912 2019.6.9

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索



# 春よ来い

## 第五六〇回 古本屋を訪ねて

「母のキョウは神田神保町の大雲堂（たいうんどう）という古本屋さんに世話になっていました」。この言葉を聞いたことがいま、面白い展開につながっています。

話したのは柿崎区上下浜のKさん。五月五日の従兄の法事の席でした。これまで母の実家やその親戚の女性の何人かが東京で奉公したのは日清製粉の正田家と聞いていました。私の母もその一人でした。まさか、Kさんのお母さんが神田神保町の古本屋に奉公していたとは……。

私は学生時代と大学卒業後に何度か神田神保町に行き、古本屋街を歩き回ったことがあります。そこでは、「秋田県労農運動史」などめずらしい本を見つけ出したこともあって、そこはうもれた歴史や知識の宝庫だと思っていました。

そこにキョウさんが若かりし頃、行って、それも古本屋さんで働いていた。そうか、キョウさんの知的な雰囲気はそこが原点だったのか。私は勝手にそう判断し、これは一度、その古本屋さんを訪ねてみなければと思いました。

大雲堂という古本屋さんを訪ねる機会、思いのほか、早くやってきました。

五月二四日。高校時代の下宿仲間が中心になって東京でミニ同級会をやることになっていました。そのミニ同級会の会場は神保町交差点から南の方に歩いて五分、約四〇〇メートルという位置にありました。「よしっ、それならば、同級会に出ることにして、神保町の大雲堂も訪ねてみよう」私はそう決意して、東京行きを決めたのです。

この日は気温が二五度前後、暑かったですね。私は最初、神保町交差点から西の方向に向かっただけだったので、私が探している大雲堂書店は神保町交差点から東側に進んで五〇メートルも行かないところにある

ことがわかりました。

大雲堂書店は外壁は新しく、色はウッドブラウン。お店の中に一歩入ると、左右の本棚は高いところまで古本がびっしりと並んでいて、古本の匂いが漂っていました。

お店の中の本をしばらく見た後、私は、店の隅っこに座っていた白髪の男性に声をかけてみました。

「すみません、上越市からやってきた橋爪といいます。大島村出身で、終戦前後、お宅にお世話になっていた内山キョウさん、ご存じでしょうか」

この問いかけに、白髪の男性は、「わかりますよ。内山さんのところからはキョウさんとミツコさん、それにサダオさんも来られてました」と答えてくださったのです。

この男性はお店のご主人、大雲健而（おおくもんじ）さんでした。にこやかな表情でいろいろと話をしてくださったのですが、びっくりしたのは、大雲さん自身が大島を訪ねていたという話です。

東京から帰って六日後、私は大島区にあるキョウさんの実家を訪ねました。

神保町の大雲堂書店や大雲さんの写真をキョウさんの実家のRさんに見せたところ、「たぶん、大雲さんがきになったときの写真、おらちにあるはずだ」というのです。これには、うれしくなりました。

その数日後、Rさんからその写真を見せていただきました。Rさんの家族とともに背が高く、若い大雲さんが写っていました。大雲さんがこの写真を見たら、懐かしい話をいっぱいしてくださるはずですよ。

ひよっとしたら、世田谷・成城町の正田家に奉公し、後に東京大空襲で行方不明となった私の母の姉、アヤノ伯母さんとの接点が見えてくるかも知れません。

## 地域が支える柿崎病院に 理事会開催

県立柿崎病院後援会理事会が5月29日、行われました。私は顧問の一人として参加してきました。理事会は後援会の最高決議機関で、この日は、昨年度の決算を承認するとともに、今年度の予算案と活動方針などを可決しました。

太田病院長は理事会で毎回、病院の現状について報



告されます。今回は、「(昨年度より常勤医師が1名減っているなかで)ゴールデンプライム中、4人の医師で回すのは大変だった」「県立病院の中で80代以上の人が入院している割合は柿崎病院がトップ」「患者(を丁寧診察のために)1人当たりの診察時間を少しでも長くしようと病院長も入っている」「同じ医療をしても大きい病院ほど加算措置のおかげで収入が多くなる仕組みになっている」「病院局BSC(バランススコアカード)成果発表会で最優秀賞を受賞したことなどを報告されました」

右の写真は桑の実です。大きいものは2割ほどの長さがあります。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月29日(水)	6月5日(水)
上越南消防署	0.050	0.047
上越北消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.053	0.057
頸南消防署	0.050	0.050
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.053	0.050